

3八潮高第232号
令和3年4月20日

令和3年度 東京都立八潮高等学校全日制課程 学校経営計画
—指導に心意気を吹き込む新しい教育課程の構築と実践—

校長 鶴田 秀樹

0 教育目標

- 自主性ある個性豊かな人間になろう。
- 礼儀を重んじ、公共のものを大切に作る人間になろう。
- 知性を磨き、深く考える人間になろう。
- 心身を鍛え、強く明るい人間になろう。
- 責任を重んじ、信頼される人間になろう。

1 目指す学校

一昨年度から本格的に始めた、新しい教育課程の策定に向けて、これまで教育課程のグラウンドデザインの決定、配当教科・科目の検討、総合的な探求の時間をはじめとするキャリア教育の内容の検討などに取組んできた。新学習指導要領に基づく新たな教育課程の本格的な実施を目前に控え、令和3年度上半期は、教育課程の詳細に至る検討を完成させたい。全日制課程普通科である本校は、中長期的な目標として、人としての生き方在り方を個々の生徒に具現化させ、人生の幸福を自ら求め、合わせて、社会の幸福の実現に寄与する人材の育成を目指すべく、その方向性を定めている。このことを、本校の定めるキャリア教育の目標として、その実現に向けた教育課程の完成を目指したい。このことは、単に総合的な探求の時間など、キャリア教育推進のための特別な時間のみで完結するのではなく、日常の教科・科目の授業、ホームルーム活動や学校行事、部活動などの特別活動など、学校のあらゆる教育課程全てにわたって、追求されるべきものであることは、言うまでもない。そのためには、総ての教職員が育てたい生徒の姿を共有し、その実現に向けて、効果的で組織的な対応に努めて参りたい。

また、新型コロナウイルス感染症のまん延防止に向けた取組は、依然として継続しなければならない。一律に学校を休業することなく、その対策を講じていくという文部科学省や東京都教育委員会の基本方針に基づき、学校経営に対峙することになる。そのためには、感染症そのものへの対策、生徒の時差登校や、オンライン等を活用した教務的内容の在り方、学校行事や部活動の対応など、対策の観点を整理しつつ、時期に応じた対応を行わなければならない。

かかる状況を踏まえ、前年度までに本校が目指した学校像実現に向けての成果に、今日的

な課題も付加し、以下の諸点について目指す学校像として定めることとする。

- (1) 自己の幸福を願い、自己と社会の関わり方を模索しながら、幸福な社会の実現を願う生徒を育成する学校
- (2) 望ましい人生観に立ち、自立的に生きることを目指す生徒を育成する学校
- (3) 社会における自分自身の役割を認識し、人生を力強く切り拓き、自己実現を意欲的に図ろうとする意志を持つ生徒を育てる学校
- (4) 社会と自己のかかわりを認識し、社会の課題の解決に向けて取り組もうとする、社会への参画意欲の高い生徒を育成する学校
- (5) 生徒のキャリア形成の重要性に鑑み、総ての教職員が力を合わせて邁進する学校

教育目標にある「自主性ある個性豊かな人間」とは、上記(1)及び(2)の内容に連動したものである。また、「礼儀を重んじ公共のものを大切にす」「責任を重んじ、信頼される人間」とは、上記(2)及び(3)と連動している。令和2年度学校経営計画の「目指す学校」を基本的に踏襲しているが、その順序を一部変えた。さらに、キャリア教育を重んじる観点から、「生徒のキャリア形成」という文言を追記した。

2 中期的目標と方策

- (1) 入学時から卒業に至る3か年にわたる意図的・計画的なキャリア教育の推進により、自己の生き方。在り方の方向性を具現化させる。このことは、総ての教育活動において、行われるものとする。(進路指導)
- (2) 自律的生活習慣を身に付け、自ら向上しようとする意志を確立させる。そのために、ホームルーム活動をより活性化させるとともに、部活動における仲間意識の育成や学校行事の効果なども活用する。(生活指導・進路指導)
- (3) 各種検定試験や模擬テストの結果や部活動での成果など、可視的な成功体験を重ねさせることにより、自己有用感を高め、自らの進路を力強く切り拓く人材を育成する。(進路指導)
- (4) 基礎・基本の学力の向上を目指した学習指導を実践する。また、そのための効果的な指導法について研究を行い、実践する。(学習指導)
- (5) 学習意欲の高い生徒に対しては、さらに高次の学習指導を行う。(学習指導)
- (6) 基本的生活習慣の確立のために、生活指導を継続的に続けるとともに、生活指導の意義を生徒自身が理解し、深められるように指導を行う。(生活指導)
- (7) 社会人として求められる知識や判断力を身に付け、自治意識を醸成するために、生徒会活動を奨励し、学校行事への主体的かかわりを支援する。(生活指導)
- (8) 部活動を積極的に奨励し、生徒の人格の陶冶に資する。部活動を通じて培われる達成感を多くの生徒に感得させる。(生活指導)

- (9) 進路指導部、教務部、各学年が連携を図り、計画的な進路指導を入学時から行う。効果的な指導を行うために、各分掌や学年が密に連携し、業務を分担するとともに、生徒の進路希望情報を共有する。(進路指導)
- (10) 生活を支える基本である健康に対する意識と知識を高め、個に応じた指導に努める。(健康指導・生活指導)
- (11) 校務分掌業務や事務分掌業務において、効果的で正確な業務執行のための改善を不断から行い、既成の方法に捕らわれない業務遂行に努める。(学校経営)
- (12) 学校図書館の機能を充実させ、自ら学ぶための環境を整える。(学習指導・学校経営)
- (13) 効果的な予算投下による老朽化している施設の改善を図り、魅力ある学校づくりに取り組む。(学校経営)
- (14) 専門的職業人としての誇りと認識を持ち、さらなる専門性の向上を目指し、校内研修に取り組む。また、行政系職員も専門性を高めるために、自己研修の機会を保障する。(学校経営)
- (15) 魅力ある学校づくりと効果的な学校広報を継続的に工夫する。(学校広報)
- (16) 生徒の進路実現と社会参画意識の育成に資するために、地域や地域に存する他校種の学校と交流を行う。(学校経営)
- (17) 教職員のライフ・ワーク・バランスを図り、個人の生活を充実させる環境づくりに努めるとともに、効果的で効率的な学校経営を目指す。(学校経営)

3 今年度の取組目標と方策

令和3年度は、これら教育課程の内容そのものの改善に迫り、総ての教職員で力を結集し、学校経営に取り組んでいくことを基本方針として定めた。このことを「指導に心意気を吹き込む」と象徴的に表現し、以下、具体的に学校経営に取り組んで参りたい。

(1) 組織的な学校経営の強化

新しい教育課程の完成に向けての取組や、本校の特色の一つであるキャリア教育の充実など、過渡期ともいえる今年度の学校経営は、これまで以上に各分掌の協力が必要である。各分掌業務を基軸として、それぞれの分掌が学校経営のどこを支えているのかを常に把握しながら、業務の遂行に邁進したい。

- ア 各校務分掌の経営目標と学校経営計画を具体的に合致させ、分掌目標として設定する。
- イ 他分掌の業務の進捗状況について、企画調整会議等を通じて、全教職員が共有する。
- ウ 学校が解決すべき課題について、全分掌や学年が協力し、緊急度や優先度の高い課題から解決に向けて取り組む。

(2) キャリア教育の具体的な実践

- ア キャリア教育推進委員会を中心として、第1学年の総合的な探求の時間における具体的な教育内容を確立する。また、そのための指導体制や評価の在り方についての検討を行い、実践する。
- イ 新教育課程における学校設定教科「キャリア探求（仮称）」についての具体的な内容及び指導体制、評価方法について研究する。
- ウ キャリア教育の具体については、本校の学校行事との関連性にも着目するとともに、関連する他の分掌と常に連携する。
- エ オリンピック・パラリンピック教育を通じた、国際理解教育について、具体的に検討する。
- オ 台湾の姉妹校との交流の在り方について、新型コロナウイルス感染症の災禍にあつて、可能な形態を模索する。

(3) 新教育課程の完成と実施の準備

- ア 教育課程委員会を中心として、6月までに、各教科・科目の配置を完成させる。
- イ 各教科で設定した科目の年間指導計画の策定を行う。

(4) 特進クラスの在り方についての検討

現行の特進クラスの在り方については、問題点がこれまでも提起されている。特進クラスの学習指導や進路指導の在り方について、改善検討を行う。そのために、企画調整会議を中心として、問題点を具体化する。その上で、改善策の検討を行う母体を決定し、改善策を講じていく。

(5) 自律的生活習慣の確立に向けた効果的な生活指導の実践

これまで行ってきた生活指導を継続するとともに、望ましい生活習慣が十分に身につけていない生徒が、自発的に学校生活に取組むことができるような新たな生活指導の在り方に挑戦する。

- ア 遅刻する生徒を減少させる。特に、遅刻登校が常態化している生徒に対して、効果的な改善が行われるように、生活指導部と該当学年が連携して指導にあたる。
- イ 登校時の校門指導を通年にわたり継続する。
- ウ 部活動の入部者数を増やし、実際に活動する生徒を支援する。
- エ 学校行事の企画・立案・実施に際し、生徒が達成感を持つことができるよう、支援する。
- オ 全教職員は、いじめは絶対に許さないという堅固な姿勢で臨み、定期的ないじめ調査をはじめ、生徒が相談しやすい体制づくりに努める。万一、いじめを発見した際

には、組織的な体制により解決に努める。

カ 保健衛生に対する望ましい意識を育て、生徒が自ら環境美化に努めようとする姿勢を指導する。

(6) 部活動の推進

新型コロナウイルス感染症のまん延防止のために、十分な活動ができないことも予想されるが、部活動を意欲的に奨励し、生徒の自己実現を支援する。また、部活動における優れた成果は、全教職員及び全校生徒で大いに顕彰する。さらに、高体連や高文連等の外部組織における活動や全国高等学校総合文化祭東京大会に向けての活動など、部活動に関する外部組織との連携を深める。

(7) 効果的な募集広報活動

中学生人口の減少や、折からの私学人気のために、ここ数年、本校の入学生徒数は減少している。昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、十分な広報活動が展開できなかった面がある。一方で、オンラインなどを活用した新たな広報の取組も開始し、一定の効果を生んでいる。社会状況が昨年度と大きく変化しない中で、今年度も苦しい展開が予想される。昨年度開発した新しい広報活動とこれまでの活動とを比較しながら、さらなる効果的な広報を展開する。

- ア オンラインを活用した広報活動の継続
- イ 中学校や学習塾への働きかけの在り方についての検討
- ウ 広報活動の新たな展開の検討
- エ 学校ホームページの効果的な改善
- オ 合同説明会等への可能な限りの参加
- カ 広報グッズの開発

(8) 施設・設備の改善

継続して、学校施設の改善に取り組む。

- ア 環境整備委員会を中心として、校内諸施設の危険箇所や破損箇所を把握し、改善に向けた優先順位をつける。
- イ 環境整備委員会の提言を、修繕要望や次年度の自立経営予算に反映させる。
- ウ 生徒の美化意識を高める。

(9) キャリア教育の推進と効果的な学習サポートに向けた学校図書館

読書支援としての学校図書館機能のさらなる充実と、キャリア教育をはじめとする学習支援の場としての学校図書館の機能の充実を図る。

- ア 図書館司書教諭と司書業務が望ましい連携を行い、選書をはじめとする図書整備業

務を行う。

イ 生徒が自発的に調査したり研究したりすることができるように、学習環境を整備する。

(10) 学校経営の質の向上

ア 令和2年度に立ち上げた若手教員の研修の場を継続し、さらに拡充し教員としての力量を互いに向上させる。

イ 教職員の望ましいライフ・ワーク・バランスの在り方を担保する。そのために、全教職員の「夏休」の全日消化、月1回、18時までの完全退庁日「クローズ・ザ・ゲート18」を実施する。

ウ 校務の効率化を図るために、積極的に機械化を導入する。

(11) 学校経営に参画する経営企画室の機能

真に学校経営に参画する経営企画室を目指し、教育目標の達成や学校経営計画の実現に向けた具体的な取組や提言を行う。

ア 環境整備委員会のメンバーとして、学校諸施設の改善に意欲的に取組む。

イ 自立経営予算については、費用対効果を念頭に置きつつ、メリハリのある予算投下を実現していく。

ウ 行政系職員の研修の在り方について、その時間を極力担保するとともに、研修の在り方について検討する。

(12) 新型コロナウイルス感染症への対応

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症への対応を継続し、生徒・職員の健康を優先し、総ての教育活動を展開するとともに、活動が不十分となるものについての代替策や補填などについて、その都度検討を行う。

ア 感染予防に向けた校内対応を年度の早い段階で再確認する。

イ 感染予防についての継続的指導を行う。

ウ 感染予防に伴う予算措置は優先的にこれを行う。

エ オンラインを活用した授業の在り方の検討を継続して行うとともに、効果的な活用方法の在り方を校内で共有する。

オ 授業の代替となったオンライン学習や課題の提出などは、組織的に情報を集約し、授業計画の実施に役立てる。

4 重点目標の設定と具体的方策（数値目標）

○生徒の学校満足度（本校に入学してよかったと思える生徒） 85%以上（学校経営）

○自律的学習習慣の定着（授業以外で自ら学習する習慣のある生徒）

65%以上(学習指導・生活指導)

○年間遅刻者延べ人数	対前年比マイナス20%	(生活指導)
○部活動定着率	85%以上	(生活指導)
○卒業時の進路決定率	80%以上	(進路指導)
○四年制大学進学率	40%	(進路指導)
○学校ホームページアクセス数	11万回	(学校広報)
○学校説明会等の来校者数	2,000名	(学校広報)
○入学選抜倍率	1.00倍以上	(学校経営)